

四国森林・林業研究発表会 グリーン四国

No.1175
2018年
2月号



特集

四国森林・林業研究発表会を開催

目次

・特集 四国森林・林業研究発表会を開催	2
・転任挨拶	5
・新任者略歴紹介	6
・各地のたより	6
・出向者からの便り	10
・私たち、ヤングライオンです！	11
・シリーズ 四国の ^{もり} 森林からこんにちは	12



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

特集

四国森林・林業 研究発表会を開催

〈技術普及課〉

映されることを期待します。」と挨拶がありました。



会場の様子

1月23日、四国森林管理局大会議室等において、「平成29年度四国森林・林業研究発表会」を開催しました。開会にあたり、野津山局長から「今回発表される課題は、森林整備の低コスト化や木材利用をはじめ、治山、二ホンシカ等の食害対策、森林環境教育など多くの今日的課題についての研究成果であり大変有意義な内容であります。発表される方々が取り組んでいる課題が、これからの森林・林業の成長産業化に向けた取組に反

65回目を迎えた今年の研究発表会には、局署職員のほか教育機関、県、市町村、研究機関、民間企業等から23課題（特別発表含む）の発表がありました。伐採・造林の一貫作業、エリートツリー、ICT等による省力化・低コスト化、獣害対策等に関する研究成果や、高知県立高知農業高校、高知県立高知工業高校の学生が学習活動の一環として取り組んでいる活動に関する発表もあり、それぞれの発表終了後には、会場から多くの拍手が送られました。

今回の発表会では、内容は勿論のこと、プレゼンテーションに、動画を使用した発表が増えるなど、聴く側に分かり易い配慮が見受けられ、会場には、聴講者を含め140名を超える方々の参加がありました。

審査の結果、四国森林管理局局長賞として部門毎に最優秀賞一課題、優秀賞一課題、奨励賞が選出され、野津山局長から各受賞者に表彰状と記念品が授与されました。

また、日本森林技術協会理事長賞、日本森林林業振興会長賞としてそれぞれ一課題選出され、表彰状が授与されました。



表彰状授与
(高知県立高知工業高等学校)

最後に、江坂業務管理官より、「発表者、聴講者のもとより審査を務められた委員の皆さま方、また、開催にあたりご協力頂きました方々に感謝し、今回発表された成果等を今後の業務等に活かしてください。」と閉会の挨拶を述べ、発表会は終了しました。

なお、今回の発表課題と審査結果は3頁から4頁のとおりです。発表要旨は、四国森林管理局ホームページ (<http://www.rinyamaft.go.jp/shikoku/release/hukyuj/20180124.html>) に掲載しています。

最優秀賞受賞者の皆様
森林技術部門

【四国森林管理局局長賞】

●最優秀賞

一般社団法人高知県山林協会技術員
竹中 義博氏

株式会社四国トライ 吉村 典宏氏



森林ふれあい部門
【四国森林管理局局長賞】

●最優秀賞
高知県立高知工業高等学校
建築課三年生の皆さま



森林保全部門

【四国森林管理局局長賞】

●最優秀賞

安芸森林管理署 係員 武市 泰典氏
大井森林事務所 係員 小杉 陵太氏



【日本森林林業振興会会長賞】
高知県須崎林業事務所
振興課長 諏訪 貴信氏



【日本森林技術協会理事長賞】
四万十森林管理署
森林技術専門官 酒井 克馬氏
森林整備官 西村 知己氏



平成 29 年度 四国森林・林業研究発表会 発表課題及び審査結果

(発表順)

受賞名	発表課題 (部門別)	発表者		
		所属	氏名	
優秀賞	一貫作業システム（一括発注）における低コスト化への取り組みについて (森林技術部門)	嶺北森林管理署 森林整備官 総括森林整備官	さいとう みつはる 斎藤 充治 はしぐち ぶくお 橋口 福男	
日本森林技術協会理事長賞	繊維ロープを使用した集材研修会後の検証について (森林技術部門)	四万十森林管理署森林技術専門官 森林整備官	さかい かつま 酒井 克馬 にしむら ともみ 西村 知己	
奨励賞	活動中の大規模地すべりにおける初期調査 一祖谷川地区西山地すべりー (森林技術部門)	徳島森林管理署 祖谷川第一治山事業所治山技術官 国土防災株式会社四国支店長	しきち ともかず 敷地 友和 みやもと たくや 宮本 卓也	
最優秀賞	林道・作業道計画におけるデジタル技術の活用 (森林技術部門)	一般社団法人高知県山林協会技術員 株式会社 四国トライ	たけなか よしひろ 竹中 義博 よしむら のりひろ 吉村 典宏	
奨励賞	電気柵によるシカ食害対策の検証結果について (森林技術部門)	高知中部森林管理署 主任森林整備官 地域技術官	おおの たかひさ 大野 登央 はぎの しんじ 萩野 伸二	
奨励賞	林業用除草剤を利用した下刈り省力化への取り組みについて (森林技術部門)	住友林業株式会社山林部 新居浜山林事業所 所長	すぎやま よしゆき 杉山 純之 きわた しんいち 喜綿 真一	みやぎ まさあき 宮城 正明
奨励賞	愛媛県西予地域における森林整備拡大に向けた担い手確保・育成の取組 (森林技術部門)	愛媛県南予地方局産業経済部 八幡浜支局森林林業課 技師 技師	なかがむら ひとし 中村 仁駿 みづた そら 水田 さら	
奨励賞	UAV を用いた樹幹投影図の作成 (森林技術部門)	高知大学農学部 4年生 高知大学農林海洋科学部 准教授	ゆあさ みさき 湯浅 美咲 まつおか まさゆき 松岡 真如	やじま よしひろ 矢島 由寛
優秀賞	森林官による地域活動について 一 小田を任せ、小田に意気する 一 (森林ふれあい部門)	愛媛森林管理署 小田第一森林事務所 森林官 小田第二森林事務所 森林官	のむら ゆうき 野村 祐樹 みづた えいじ 水田 英司	
日本森林林業振興会会長賞	産地商談会による FSC 認証材、四万十ヒノキの販路拡大の取り組み (森林ふれあい部門)	高知県須崎林業事務所 振興課長	す わ たかのぶ 諏訪 貴信	

受賞名	発表課題 (部門別)	発表者	
		所属	氏名
奨励賞	シキミ生産・販売に関する活動 (森林ふれあい部門)	高知県立高知農業高等学校 森林総合科2年生	藤田 佑成 野村 光 と い し き 土 居 季 樹
奨励賞	飯野山<讃岐富士>の市民参加による 登山道整備 ～一日一石運動～ (森林ふれあい部門)	丸亀市スポーツ推進課 香川森林管理事務所係員	江 瀨 貴 彦 崎 川 龍 也 え ぼ ち た か ひ こ さ さ き が わ た つ や
最優秀賞	朝倉米田公園の地域住民との協同整備 計画 (森林ふれあい部門)	高知県立高知工業高等学校 建築科3年生	小松 拓真 野村 龍青 藤丸 翔 古谷 世永 ふる や り ょ う よ こ や ま よ こ や ま わ だ あ ゆ む ふる や せ じ ぶ わ た な べ ゆ う り
奨励賞	再造林地でのノウサギ食害対策について (経過報告) (森林保全部門)	四国森林管理局 森林技術・支援セ ンター企画官	那 須 さ と る と る 悟
最優秀賞	くくり罠を用いたシカの効率的な捕獲 方法の試行 (森林保全部門)	安芸森林管理署 係員 大井森林事務所 係員	武 市 や す の り こ す ぎ り ょ う た 小 杉 陵 太
優秀賞	林床植生の保全を目的に設置した防鹿柵 の隣接地域における植生回復過程 (森林保全部門)	高知大学理学部 大学院理学専攻1年 教授 講師	池 田 か ゆ う 石 川 し ん ご 比 嘉 も と き 基 紀
奨励賞	二ホンジカの被害対策とドローンを活用 した鹿防護網の見回り (森林保全部門)	四万十森林管理署 窪川・中津川事務所係員	津 野 と も の り 友 謹
奨励賞	近世から近代への「公益性」の継承と 展開過程 ―四国の保安林を事例に― (森林保全部門)	高知大学地域連携推進センター 特任講師	あ かい 池 し ん ご 赤 池 慎 吾
	四国地域におけるヒノキ第二世代精英 樹(エリートツリー)の着花特性につ いて ※特別発表	森林総合研究所林木育種センター 関西育種場 遺伝資源管理課 四国増殖保存園管理係 林木育種センター 育種研究室長 林木育種センター 育種課長	い い だ よ し さ と 三 浦 ま さ ひ ろ 久 保 田 ま さ ひ ろ 飯 田 啓 達 真 弘 正 裕
	愛媛県における広葉樹苗木植栽指標の作 成 ―種苗の移動・配布ガイドライン― ※特別発表	愛媛県農林水産研究所 林業研究センター 主任研究員	にし 原 よ し あ き 西 原 寿 明
	乾燥条件の異なる構造材の強度性能に 関する研究 ※特別発表	高知県立森林技術センター 主任研究員	も り た た か お 盛 田 貴 雄
	皆伐地での二ホンジカ捕獲による苗木 被害抑制効果の検討 ※特別発表	森林総合研究所四国支所 森林生態系変動研究グループ 主任研究員	お お た に た つ や 大 谷 達 也
	森林におけるGNSSの位置精度の評価 ※特別発表	高知大学農学部・4年生 高知大学 准教授 日本森林林業振興会高知支部支部長	か み つ は ら た い ち 上 津 原 太 一 ま つ お か ま さ ゆ き 松 岡 真 如 か わ か み と し つ ぶ 川 上 利 次

転任挨拶

「四国土佐雑感」

林野庁研究指導課長
(前四国森林管理局 森林整備部長)

森谷 克彦



1月の異動により四国を離れ、東京での勤務となりました。四国土佐で過ごした3年あまりを少し振り返ってみたいと思います。

四国森林管理局は、四国4県で約20万ヘクタール。全国の国有林面積の僅か4%に過ぎませんが、急峻な山での仕事の困難さは、他の地域では比類ありません。

在任中は、災害復旧治山、ヤナセスギの間伐、希少種の保全、獣害対策、人材の育成、林業の低コスト化などたくさん仕事の事に携わることができました。成果への言及はおこがましいので

すが、自分としては充実した日々を過ごさせていただけたと感じていきます。

素晴らしき満載の四国4県を語るには制約があるので、ここでは高知、土佐のことについて触れたいと思います。

まず、高知には素晴らしい植物園があります。我が国植物学の祖 牧野富太郎氏の生誕地を記念して造られた高知県立牧野植物園です。高知に生育する種はもとより、ここでしか出会えない希少種、世界各地の木本・草本類が広い園内に所狭しと育てられています。特筆すべきは、入園者へのサービスの質です。夜に咲く・香る花を見る「夜マキノ」、夜の観枝会や観月会、体験型の薬用作物観察など、楽しみは尽きません。高知の誇るスポットして多くの人に是非訪れてほしいと思います。

また、土佐といえば、やはり美味しい酒と新鮮な魚、果菜でしょう。蔵元の春の蔵開きは、辛党にはたまらない催しです。鰹はじめ、室戸のキンメ、足摺の鯖、四万十の鰻など枚挙にいとまなく、土佐の人情に触れ、地のものを

食する喜びは、私にとって得難い経験でした。

高知市内の朝市では、馴染みのおばちゃんと会話しながらの買い物もまた楽し、でした。土佐の人たちは、なんと贅沢で、恵まれた生活をしているのでしょうか。

以上のような素晴らしい生活体験がわずか3年足らずで終えてしまったことは、なんとも残念でした。最後に、一応仕事も一生懸命しておりましたことを付け加えて、ペンをおきます。高知の皆さん、四国の皆さん、お世話になりました。また訪れる機会まで。



新任者略歴紹介



森林整備部長

松本 寛喜

- 昭和61年4月
林野庁指導計画課採用
- 平成11年4月
四国森林管理局企画調整室長
- 平成21年12月
林野庁森林整備部研究・保全課森林保全室長
- 平成28年4月
国立研究開発法人
森林総合研究所 総務部長
(平成29年4月より国立研究開発法人
森林研究・整備機構に名称変更)
- 平成30年1月 現職



各地のたより

無人航空機（ドローン）講習会開催

〈四万十森林管理署〉

昨年12月に四万十市と梶原町において、地方自治体職員等を対象としたドローン講習会を開催しました。

①講習会（四万十市）

12月5日、四万十市防災センターで開催された「平成29年度幡多流域林業活性化センター（第1回）研修会」において、局・署職員が講師となり、森林・林業におけるドローンの利活用、操作に関する講習会を行いました。当日は、高知県幡多林業事務所、幡多流域内の市町村役場及び森林組合の職員24名参加しました。



実技講習の様子（四万十市）

初めに四国森林管理局業務管理官から森林・林業におけるドローンの利活用について、続いて企画調整課長補佐から関連法規及び操作等について、それぞれ講話を行いました。



各地のたより 目次

- 無人航空機（ドローン）講習会開催
- 東中筋小学校でシイタケの駒打ち体験
- 身近な材料を使って簡易な方法での炭焼き体験
- 2校で木工クラフト学習
- 労働災害防止に係る現地検討会を開催

講話終了後、四万十川河川敷へ移動し、飛行操縦の実技講習を行いました。参加者からは「今後の業務運営の効率性・省力化を推進する上で、購入したい。」等の声があり、有意義な講習会となりました。

②講習会（梶原町）

12月7日、梶原町『ゆすはら・夢・未来館』等において、森林・林業における業務の省力化・効率化の推進及び災害対応におけるドローン活用を目的とした講習会を開催しました。講習会には高知県須崎林業事務所、梶原町役場及び森林組合等の職員27名が参加しました。

当日は、局・署職員が講師となり、関連法規等に係る座学講習、飛行操縦実技講習、山林における飛行デモンストレーション等を行いました。



実技講習の様子（梶原町）

「デモ飛行では、森林調査や遭難者捜索を行う場面を想定し、ドローンを飛行させ、飛行の様子やドローンが撮影した映像を見ていただきました。参加者からは、「ドローンの活用により、山林での業務がいかに安全かつ効率的に実行できるかを認識した。」等の声があり、有意義な講習会となりました。」

した。

東中筋小学校で

シイタケの駒打ち体験

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

1月18日、四万十市立東中筋小学校の「山の学習」で、5年生16名を対象にシイタケの駒打ち体験学習を指導しました。

はじめに教室で、「キノコ」のことやシイタケ栽培の方法について説明しました。

その後、校庭に出て駒打ちの体験です。電動ドリルの使用方法や原木の穴開け方法、作業の注意点を実演を交えて説明した後、5班に分かれて作業を行いました。

クヌギ原木に種駒を木槌で打ち込むなど、みんなが協力して作業を進めた結果、ほだ木50本余りが完成しました。ほだ木は家に持ち帰ってシイタケが生える過程を観察するそうです。

終わりに児童から、「電動ドリルを使った穴開けは初めてだったので少し緊張したけど、よい経験になりました。」



電動ドリルで原木に穴を開ける様子

「シイタケが生えるのがとても楽しみです。」との感想がありました。今回のシイタケの駒打ち体験を通じて、児童達が森林や林業への関心や理解を深めていってくれることを期待しています。

た。

身近な材料を使って簡易な方法での炭焼き体験

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

1月10日、愛媛県松野町立松野西小学校の4年生15名を対象にした今年度第6回目の森林環境教育として炭焼き体験を実施しました。

はじめに、炭の種類や利用方法、炭の特性について説明し、続いて炭焼き体験を行いました。児童達は職



簡易な炭焼きの様子

員から手順や注意点を聞き、ブリキ缶の中にもみ殻とマツボックリやドングリ、折り紙など自分達で作った物を詰めてドラム缶のたき火の中へ並べました。そして、アルミホイルに包んだイモが炭になるかどうか合わせて実験しました。

炭になるまでの待ち時間で色々な炭の実物を観察しました。白炭と黒炭をノコギリで切断する実験では、黒炭は簡単に切れたのに対して白炭は堅くてなかなか切断することができませんでした。

また、白炭の備長炭を木のバチで叩くと「チンチン」と鉄琴のような綺麗な金属音がするので、児童達が叩いて叩いて即席のミニ演奏会もしました。

さらに、たき火の中からブリキ缶取り出し、冷めるのを待つ間にアルミホイルを開けると、イモは皮の表面だけが黒く焦げ、炭にはならず失敗でしたが、ほくほくの「焼き芋」ができあがりみんなでおいしく食べ

ました。

そして、ブリキ缶を開けると折り紙やドングリ、マツボックリなどは実験成功で、見事に「炭」になっていました。



ブリキ缶から炭の取り出しの様子。ちゃんと炭になってました。



終わりに児童達から、「年間を通じ

た森林学習で、森林の大切さ、自然の大切さがわかりました。めっちゃ楽しかった。」とお礼の挨拶がありました。

当所としても継続した森林環境教育を通して、森林の大切さや木材利用についての理解がより深まったものと考えます。

2校で木工ラフト学習

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

12月11日、四万十市立東中筋小学校の1・3年生と5年生の計34名、1月17日には四万十市立中村小学校の1・2年生計75名を対象に木工ラフト学習を実施しました。

最初に東中筋小学校では、木材には優れた性質や欠点もあり、木材を工夫して色々な物や場所に使うことを説明しました。

また、中村小学校では紙芝居「森」で、人工林は人による手入れが大切

であることを説明しました。

次に、2校ともスギやヒノキの板で、ゆるキャラ等のストラップを製作しました。児童達は夢中になって製作し、それぞれ作品を完成させました。

最後に児童達から感想の発表があり、「紙芝居を見て木や森、自然の大切さがわかりました。」「ゆるキャラのストラップが良く出来たので家族にプレゼントしたいと思います。」と嬉しそうに話してくれま



木材の特徴について知る実験の様子（東中筋小学校）



木工クラフト製作の様子（中村小学校）

した。
今回の森林環境教育を通して木材の良さや森林の大切さを身近に感じてもらえたと思います。

労働災害防止に係る現地検討会を開催

〈嶺北森林管理署〉

昨年11月22日、嶺北森林管理署管内の立割不寒冬山国有林の生産請負事業現場において、嶺北森林管理署と高知中部森林管理署が合同で労働災害防止に係る現地検討会を開催しました。

現地検討会は、請負生産・立木販売事業を実施している事業体の現場代理人を対象に、林業・木材製造業



開会挨拶

労働災害防止協会（以下「林防災」）高知支部、四国森林管理局請負事業体連絡協議会、高知県素材生産業協同組合連合会、高知県森林組合連合会にも出席していただきました。

はじめに川久保嶺北森林管理署長より開会の挨拶があり、続いて、林防災高知支部の宗崎事務局長より、最近の死亡災害の概要や林業における労働災害の発生状況等について説明がありました。

その後、現地へ移動し、作業道からグラップルでの単線地曳き集材作業及びチェーンソーによる伐倒作業の視察及び意見交換を行いました。参加者は、単線地曳き集材作業での繊維ロープ使用に関心が高く、「軽いので労働負荷の軽減になり移動時の安全確保にもつながる。」「切断、擦れはあるが繋ぎは案外容易である。」「同じ事業体でも作業班によっては、ワイヤーロープの方が使いやすい。」等、様々な意見交換を行いました。また、伐倒作業では伐倒方向の確認や同僚の立入禁止区域への注意喚起等について意見交換を行いました。



集材作業を見る参加者

最後に、森野高知中部森林管理署長の閉会の挨拶で検討会を終了しました。このような現地検討会を開催したことは当署としては初めてであり、参加者からは、「同じ事業を実施している他の現場を見る機会も無く、また、現場従業員間での意見交換ができたことは大変有意義であった。」との声もあり、平成30年度にも継続して実施することとしています。



出向者からの便り



第二期高知県産業振興計画について

高知県林業振興・環境部 副部長 川村 竜哉

高知県は全国より15年先行して平成2年から人口が自然減に転じています。人口の減少は働き手の減少と県内市場の縮小を招き、全国的な景気回復の波に乗れず、負のスパイラルに陥っていました。このため、県内の第1〜3次産業まで全ての産業分野を横断して「地産外商」を進め本県経済の体質強化を図る「高知県産業振興計画」を策定し平成21年度からスタートしました。

現在、高知県産業振興計画は第3期（H28〜31）の2年目 Ver2となっています。この計画の特色として、PDCAをしっかりと回していくため、知事を本部長とする「産業振興計画推進本部」を年5〜6回、外部有識者によるフォローアップ委員会を年3回開催して、各分野毎の進捗状況を確認し目標どおり進捗していなければ、年度途中でも見直しや

追加対策を講じています。年度末には次年度にむけてバージョンアップも検討して毎年度の当初予算に反映してきています。

高知県は森林率が84%で全国1位。民有林面積は約47万ha、その内、私有林人工林は約6割、27.5万haにも達し、私有林人工林面積では北海道（54.7万ha）、岐阜県（28.2万ha）に次いで全国3位です。このように高知県は県土のほとんどが森林であり、利用可能な人工林が豊富に存在します。

尾崎正直高知県知事は、日頃から「林業の再生無くして中山間地域の再生なし。中山間地域の再生無くして県勢の浮揚無し。」との発言を繰り返してまいります。その言葉どおり、第3期高知県産業振興計画の林業分野では、「柱1 原木生産のさらなる拡大」、「柱2 加工体制の強化」、「柱3 流通・販売体制の確立」、「柱4 木材

需要の拡大」、「柱5 担い手の育成・確保」の川上から川下まで5つの施策を掲げ、この豊富な森林資源を余すことなく活用して林業の成長産業化を実現し、「山で若者が働く全国有数の国産材産地」を目指すこととしています。

平成30年度、第3期 Ver3では、林業分野は「A材の需要拡大・販売促進対策」をキーワードにバージョンアップすることとしています。A材を安定的に供給するため原木全体の増産に向けた取組を強化することも、一般製材品を活用した非住宅木造建築物への支援や一般製材品の県外への販売支援の強化、製材事業者の経営力強化などの施策を進めていきます。

高知県産業振興計画の各種施策を常に磨き上げ、官民一体で取り組んできた結果、原木生産量や製材品県外出荷量の増加など林業分野の指標が向上しているだけでなく、有効求人倍率や一人当たりの県民所得など経済全体の指標も向上しており、人口減少下にあっても拡大する経済に構造が転換しつつある段階になっています。この流れを着実なものとし、高知県の森林・林業・木材産業における拡大再生産の好循環の実現に向



県内製材工場の一般製材品



タワーヤーダーによる原木生産

けて、引き続き、関係者の皆さまと連携しながら取り組んで参ります。



私たち、**第1回** ヤングライオンです!

皆さん、こんにちは。

ここでは、林野庁四国森林管理局に入庁後、各署に配属されて頑張っている若獅子【ヤングライオン】に、入庁後の印象や今後の夢などを聞かせてもらいました。

記念すべき第1回目は、徳島森林管理署業務グループの「谷脇はるか」さん（平成28年度入庁）です。



谷脇 はるかさん

Q 職場に入る前の印象を教えてください。

国家公務員の2次試験の合格発表後、四国森林管理局の職員が、私の通っていた高校へ職場説明に来てくださった時にこの職場の存在を初めて知りました。その時にお話してくださいました方の髪型がどうしてもオラオラ系にしか見えないうえに、男性が多い職場だと聞いていたので、ちょっと怖い職場なのかなと感じた記憶があります（実際はよく笑いかけてくださるとても優しい方でした）。

Q 入庁後の印象はどうでしたか？

怖い印象を持ったまま入った職場でしたが、実際は皆さんとても優しく、この職場に入って正解だったなと思っています。

Q 2年が経とうとしていますが、楽しい時ってどんな事がありますか？

入庁当初は地下足袋で山を歩く時の足音が新鮮で、地面を踏むたび季節の音が聞こえるようで楽しかった記憶があります。現在では気にもならなくなりましたが、当初のようなピュアな心はどこかに落としてきたのかもしれません。

Q 苦労したこともあったと思います。正直に教えてください。

こんなことは滅多にないと思いますが、もともと虫が苦手な私にとって車内にアブを3匹つれたまま現場から帰ってきたときは気が気じゃありませんでした。当時一緒に出張に行った上司からは手で叩けばいいと教わりましたが、今でもそのような技は使えておりません。

Q 色々な業務研修を受講したと思いますが、その後の業務の見え方は変わりましたか？

最近では実務や職場の方との会話を通して、研修で習った知識が少しずつ自分の中で増えていることを実感できるようになりました。理解できることが増えてくると、林業のことを何も知らない状態が入った時に比べて仕事も楽しいです。



職場での思い出（ドローン講習会）

Q 今後の抱負などを教えてください。

まずは、研修をしっかりと受講して今以上に知識をつけたいですね。分らないことがあった事が理解できるようにすることは、学生の頃と同じように新鮮です。上司や職場の先輩のように立派に業務を遂行できるように、より上を目指して精進していきたいと思っています。

あとは、お酒を飲める年齢になったので、研修後の懇親会もとても楽しみます。職場のお姉さん達と、居酒屋巡りしてみたいです。

平成28年度に採用され、約2年が経過し、業務に関する知識も増え、職場を楽しんでいる様子がよく分かりました。虫が苦手だという話を聞いて、自分が新採時に現場の方と食べた蜂の子の味が「ピスタチオ」に似ていた事を思い出しました。

【栄談】



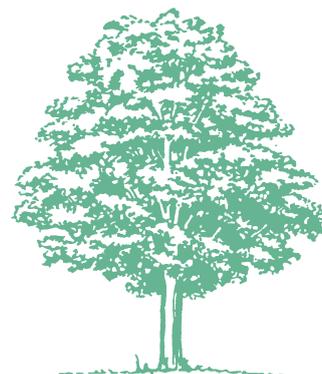
職場説明をしてくださったオラオラ系の優しい？先輩

シリーズ

もり 四国の森林からこんにちは

四万十森林管理署 清水・貝の川森林事務所

首席森林官 牛尾 善博



筆者

清水・貝の川森林事務所は、高知県の西南部に位置し、東は土佐清水市下ノ加江の長笹山から西は大月町泊浦の弦場山までの広範囲を管轄しています。国有林約5500ha、官行造林約250haを首席森林官、森林技術員、再任用職員合わせて5名で管理しています。

海岸線沿いの国有林は、足摺宇和海国立公園に指定されており、大月町には観音様の立ち姿に似ている観音岩で知られる「大堂海岸」、ダイビングや磯釣りで有名な「柏島」があります。また、四国最南端の岬「足摺岬」があり、高さ約80mの断崖から見下ろす太平洋は絶景です。また、巨石が林立する「唐人駄場遺跡」はパワースポットとして知られています。さらに、「ジョン万次郎資料館」など数多く

の観光地があります。

足摺半島に位置する佐田山国有林は、林木遺産資源保存林に設定されており、この保存林には、樹齢140年を超える常緑広葉樹（シイやアカガシ等）の大木が生育し、貴重な生態系を形成しています。10月下旬から12月上旬頃には、林床にシイの根に寄生する不思議な植物ヤッコソウが顔を出します。

また、影平山国有林及び佐田山国有林約59haでは、平成26年8月に「足摺白皇山・自然と歴史保全活動の会」と多様な活動の森（名称：足摺・照葉（てるは）の森）における森林整備等に関する協定を締結し、市民参加による歩道の修理や自然観察会などを実施しています。

雄大な太平洋を望む自然豊かな大堂海岸、柏島、足摺岬など景観に優れた観光地やカツオ、清水サバなどの魚で有名な土佐清水市、大月町に一度、訪れてみてください。



佐田山国有林



足摺岬



観音岩